

## 全身性強皮症 患者会と連携したQ&A作成 消化管に関する研究

研究分担者 後藤大輔 筑波大学医学医療系 膠原病リウマチアレルギー内科学 准教授

研究分担者 安岡秀剛 藤田医科大学医学部 リウマチ・膠原病内科 講座教授

### 研究要旨

昨年度までに作成した全身性強皮症診療ガイドライン改訂版を広く理解してもらうことを目的に、患者から募集した質問に回答する形でのQ&A集を作成する予定である。今年度はガイドラインの改訂で担当した消化管病変に関して10質問を作成した。

### A. 研究目的

2022年度までに全身性強皮症の診療ガイドラインの改訂版を作成したが、今後はこのガイドラインを医療者に診療で活用してもらうのはもちろん、この内容に関して患者層にまで知ってもらうことが重要である。そこで、「強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診断ガイドライン・疾患レジストリに関する研究」班として、患者さんから疾患に関して知りたい疑問を募集し、その中からガイドラインを網羅する形で質問事項を選択し、文献的根拠を持った丁寧で分かりやすいQ&A集を作成することを目的とした。本研究では、診療ガイドラインで担当した消化管病変に関して担当し、今年度は質問事項の選択・決定を行った。

### B. 研究方法

強皮症患者会の患者さんから、ガイドラインに準拠した質問を募集した。

その中から、ガイドラインのクリニカルクエスチョン(CQ)に沿った質問と、できる限り文献的根拠をもって回答することが可能な項目を選択した。

#### (倫理面への配慮)

患者会からの質問は匿名で受け付け、個人情報の保護に配慮して行った。

### C. 研究結果

強皮症患者会の患者さんから、合計246項目の質問があがり、その中から担当する消化管病変に関連する質問は17項目であった。

この中からガイドラインを網羅する内容の質問を選択し、明確な根拠を持って回答可能な以下の10項目の質問を作成した。

- Q1：消化管病変がある場合、食事で注意することはありますか？
- Q2：飲食物が通り難くなるのはなぜですか？
- Q3：胸焼けがすることがあるのはなぜでしょうか？
- Q4：胃カメラは毎年すべきですか？
- Q5：重症な胃食道逆流症に対して手術療法を選択するのは、どんな症例ですか？
- Q6：バルーン拡張術適応は、どのようなケースですか？
- Q7：蠕動運動が低下し、残渣の停滞、異常ガスの発生、吸収障害してしまう症状に有効な治療はありますか？
- Q8：消化管症状に効果のある新しい薬はありますか？
- Q9：逆流性食道炎の対処法を教えてください。
- Q10：食道内圧検査で、ほぼ蠕動運動がないような場合、食事はどうすればいいのですか？

### D. 考察

患者さんから募集した質問内容から、診療ガイドライ

ンは診断・治療に関する記載が中心であるが、患者としては診断・治療の他に、症状や合併症一般的な経過、生活上の注意点などに関する情報を必要としていることが分かった。できるだけ希望する質問に回答できるように配慮したが、ガイドラインの内容に沿った内容で、かつ回答する際の根拠が明確となる質問を選択し、上記の10項目を決定した。

## E. 結論

全身性強皮症の患者さんからの質問から消化管病変として回答すべき10項目を作成した。

今後、これらの質問に対する回答を、文献的根拠をもとに作成する予定である。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

なし

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

## H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし